

社会福祉法人ぶどうの木 ロゴス点字図書館

平成27年度事業計画

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

はじめに

ここ10年余、職員の入替りはなかったのですが、昨年暮れ、ベテランの点字校正職員が「体調不良」を理由に退職願いを出しました。点字図書館としては大きなダメージですが、受理しました。急ぎ後任者を探して、この2月・3月を訓練期間とし、4月から採用予定です。

さて、平成13年の法人発足から数えて15年目になります。毎年の事業はそう大きな変化はありませんが、平成27年度の主な事業内容を経費と絡めて取り上げてご紹介します。

経常活動による収入 6026万9千円

定期刊行物の不振

昨年暮れに月刊誌の『ドコモ・レター』と女子パウロ会の『あけぼの抜粋』版の休刊が決まり、約300万円の収入減となりました。加えて当館の看板誌『あけのほし』の発行部数も75部に落ち込み、約40万円の赤字となりました。また、日曜の教会ミサに使われる冊子「聖書と典礼」の利用者も100人となり、この傾向はしばらく続きそうです。『あけのほし』継続のためのスポンサー探しが急務となっています。

点字・録音製作事業

これは外部からの受注を受けて行う部門です。昨年は800万円の予算を見込みましたが、衆議院選挙の点字公報作成、公益団体の助成による点字製作事業が加わり、補正予算では1280万円となりました。今年度は統一地方選挙などがあり、一定の収入は見込めるものの、現時点では500万円の計上でいっぱいです。ここも安定した定期刊行物がほしいところです。

ロゴスの文化教室（講演会）

6月6日にニコラ・バレ修道院で開催します。テーマと講師は検討中です。講師謝金を

含め11万円の予算です。

チャリティ映画会は土曜日の昼開催

この映画会は毎年平日のよりに開催していましたが、平日の夜は出にくい方も多いいことを踏まえて、今年は土曜の午後開催という冒険を試みます。9月26日に開催予定です。入場者数の収入目標は250万円（1250人）で、どんな結果になるか注目です。さわやかで感動的な上映作品は、5月末頃決まります。必要な経費は会場使用料を含め94万円見込んでいます。

点訳勉強会でレベルアップをはかる

当館の点訳の勉強を終えて、点訳作業に入った皆さんは、それで良しとはなりません。この作業は見出しを含む点字のレイアウト、記号の使い方、複合語のマスあけなどに悩まされます。そうした点訳上の問題を解決する場として1ヶ月に1回、当館校正職員とボランティアによる勉強会を開いて、問題を持ち寄って解決し、点字表記の統一に努めます。

音訳勉強会と音訳者養成講習会

音訳勉強会は点訳勉強会と同じ主旨で、日常の音訳で起こる問題点を語り合い解決する場です。音訳勉強会、音訳校正勉強会をそれぞれ月1回開いています。

音訳者養成講習会は、音訳者を目指す人を募集し、職員と外部から招いた講師を中心に20回の講義と実技を受ける期間です。録音図書が大きく伸びている現在、欠かせない事業の一つです。

両方とも外部講師を招くので30万2千円の経費を見込んでいます。

中途失明者支援のための点字教室

数年前から途中で失明された人が、生活の中で活用できる点字を修得してもらう場を設けています。一人月2回、1時間30分ほど勉強してもらいます。現在、男性一人、女性二人が教室に通っています。講師は、やはり中途失明された方をお願いしています。経費は謝金・交通費を含め19万5千円を見込んでいます。

補助金収入

東京都から6人分の補助金として3869万9千円、共同募金会より30万円の受配金があります。当館会計の柱です。

寄附金収入

昨年度末に思いがけなく大口の寄附をいただきましたが、今年はこれまでの実績を踏まえて、慎重な数字を計上しました。定期維持寄附金350万円、一般寄附金680万円、使用済み切手収集など現物寄附金638万円で合計1093万8千円です。寄附者開拓のため各地区別に集中的に、ロゴスの存在とその仕事内容を書いたビラをお送りしてご協力

を仰いでいますが、大抵は2、3個所反応があるのみです。まだまだ厳しさは続きそうです。

事業費支出 421万7千円

活字関係の印刷費 63万円 『あけのほし』表紙、「通信あけのほし」「事業報告」
点字図書製作費 136万9千円 パソコン用紙や点字用紙など
録音図書製作費 34万9千円 テープ・CD、ケース代など

事務費支出 722万1千円

旅費交通費 137万円 出張費、ボランティア交通費、その他会議費
研修研究費 18万円 関点協、サピエ、全視情協、日盲者協、出版部会など
事務消耗品費 16万円 ウイルスバスター更新、コピー用紙代など
印刷製本費 20万円 封筒代、コピーカウンター代など
光熱水道費 48万円
通信運搬費 55万5千円 電話代、切手代など
諸会費 38万2千円 関連団体会費（日盲社協、全視情協、日図協、東社協など）
業務委託費 175万円 中央協管理費、委託費など
手数料 89万円 ボランティア保険、郵便振替、ホームページ委託など
賃借料 42万4千円 コピーリース料、会議室使用料など
保守料 35万6千円 JTR高速点字印刷機1台
渉外費 23万円 盆暮れ、日本聖書教会、日盲伝ほかXマスカードなど
退職給付引き当て資産支出 52万4千円 東社協積立て
退職共済掛け金 31万3千円 医療社会福祉事業団

今後の展開

例年と比べると、余り変化のない事業計画となりました。全体にスリムになったようですが、中味は濃くしなければなりません。職員の平均年齢は新人の登場により、55歳から52歳に若干若返りましたが、事業も年齢も安全地帯とは言い難いものがあります。しかし、この事実を真正面から受けとめなければなりません。

過去3年越しの事業としてフランシスコ会訳注の『聖書』点字版はこの3月に完成しました。関係者の皆様から熱心なご協力をいただき、心からお礼を申し上げます。

また、本書録音版の新約聖書は完成しましたが、旧訳聖書はあと2年はかかる見通しです。音訳図書の電子化は着実に進んでおり、その新しい動きも日常業務に反映させなければならず、現場はかなりきつそうですが、少しずつ人材養成をはかって切り抜きたいものです。やることはたくさんあります。

今年は障害者権利条約や障害者差別解消法など、障害者の生活を支える法律の現実的な議論が繰り広げられそうです。いわゆる共生社会を地についたものにするためには、どう具体化していくかが問われることとなります。そういう人権の内容にも気を配りながら、この1年の事業を進めます。